

企業ニュース 第一三共

(東証プライム: 4568) <https://www.daiichisankyo.co.jp>

作成者: 兵藤三郎

国内大手創薬企業

2005年、三共と第一製薬との共同持ち株会社として設立された国内大手創薬企業。国内主力だがグローバルにも展開している。26.3期までの第5次中期経営計画では、3つの抗体薬物複合体(ADC)の上市・適応拡大に研究開発リソースを集中しつつ、以降の成長ドライバーとなるプロジェクト(Alpha)に注力していく、「3 and Alpha」戦略を展開する。3は「エンハーツ」、「Dato-DXd」、「HER3-DXd」の3つのADC。「エンハーツ」は2019年3月に、「Dato-DXd」は2020年7月にアストラゼネカ社と提携し、適応拡大を含めた治験・商業化を進めていく。「エンハーツ」は2020年に上市され、上市国での市場浸透及び上市国の拡大により製品売り上げが伸長している。6月に開催予定の米国臨床腫瘍学会(ASCO)で新たな治験データの発表も期待されている。

◇エンハーツに続く主なADC開発状況等

開発コード	標的抗原	適応がん種	開発状況
Dato-DXd	TROP2	非小細胞肺癌など	P3
HER3-DXd	HER3	非小細胞肺癌など	P3 準備中
DS-7300	B7-H3	小細胞肺癌	P2 準備中
DS-6000	CDH6	腎細胞がん、卵巣がん	P1

(出所)第一三共資料よりCAM作成

「エンハーツ」の業績貢献が始まる

22.3期の連結業績は、売上収益が1兆449億円、前期比9%増、営業利益が730億円、同14%増。グローバル主力品リクシアナ、エンハーツなどの伸長により増収。アストラゼネカ社との販売提携を終了(2021年9月)したネキシウムの382億円の減収を補った。オンコロジービジネスユニット(米国、欧州でのがん領域事業)でのエンハーツの売上収益が544億円、同287億円の増収と大きく寄与した。同剤は、HER2陽性乳がんのサードラインにおける新規患者シェアが米国、日本で第1位を維持し、欧州では2022年2月にドイツで上市され、順調に成長している。

23.3期業績の会社計画は、売上収益が1兆1,500億円、前期比10%増、営業利益が1,050億円、同44%増。国内における薬価改定の影響、ネキシウムの販売提携終了などの影響を、エンハーツなど主力品の伸長で補い増収。環境対策費用など前期に発生した一過性費用がなくなり営業利益は大幅増益の計画。決算説明会の席上、HER2低発現の乳がん患者を対象とした治験におけるエンハーツの良好な結果が示唆された。詳細は6月の学会で示される模様。

【株価動向・投資判断】

HER2低発現に適応が拡大すれば対象患者数は大幅に増加する。「エンハーツ」のさらなる市場拡大が今後も業績をけん引しよう。

<4568 第一三共 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	円	円
21.3	962,516(▲2)	63,795(▲54)	74,124(▲47)	75,958(▲41)	39.2	54.00
22.3	1,044,892(9)	73,025(14)	73,516(▲1)	66,972(▲12)	34.9	27.00
23.3 予	1,150,000(10)	105,000(44)	105,000(43)	83,000(24)	43.3	27.00

(注)20年10月1日付で1株につき3株の割合で株式分割を実施。21.3期の1株配当は当該株式分割前第2四半期末40.5円と分割後期末13.5円の合計値



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価(2022/5/13)	3,302 円
年初来高値(高値日)	3,418 円(22/5/6)
同安値(安値日)	2,288.0 円(22/2/7)
予想PER(23.3予)	76.3 倍
1株株主資本(PBR算出用)	704.8 円
PBR	4.69 倍
予想配当利回り	0.82 %
(1株当たり配当金年27.00円)	
ROE(22.3)	5.1 %
発行済み株式数	194,703 万株